

「持続可能な地域社会の多様性 ～観光リゾート、山村、大都市の地域間比較」

担当教員名 小島 聡／朝比奈 茂／梶 裕史

1 コースの概要

日 程	2013年8月19～21日、25日
場 所	山梨県富士河口湖町、山梨県小菅村、横浜市
参加人数	25名

2 コースの目的

「持続可能な地域社会」という理念は、全ての地域に共通していますが、望ましい将来の社会像、そのための具体的な課題や実践は多様です。そこで、対照的な3つの地域を探訪し、持続可能性の視点から比較します。

3 事前学習

事前学習の1回目は、世界文化遺産に登録される富士山、人口減少問題に直面する山梨県小菅村の現状と課題、横浜市における「農のあるまちづくり」政策の動向について講義を行いました。なお横浜市については、人間環境学部OBの職員をお招きしました。2回目は、参加学生が、3つの地域の多様な情報と質問すべき論点を持ち寄り、ワークショップ形式で共有を図りました。



世界文化遺産・構成資産を巡る

4 行程（内容）

1日目

8月19日は、まず富士河口湖町役場を訪問し、自治体政策の全般的な動向と世界文化遺産登録への対応について講義を受けた後、河口浅間神社、船津胎内樹型などの構成資産を見学しながら、現地説明を受けました。

2日目

8月20日は、土石流でかつて消滅した集落の復元テーマパークと西湖を訪れた後、小菅村に向かいました。小菅村では、まず山村の資源を活用したむらづくりについて、NPO 法人多摩源流こすげの説明を受けた後、村内の風景を散策しながら見学し、さらに企業と協力した森林再生の現場にも行きました。また夕方、村営温泉で入浴をして観光を体感し、夕食後は、若手の村民、小菅村で活動する若いNPO関係者と語り合う場を設けました。

3日目

8月21日は、村内施設の見学の後、ビレッジ・セールスのキャッチ・コピーを考えるワークショップを行いました。

4日目

8月25日は、みなとみらい地区で横浜市内の農家による朝市に参加し、市民への販売を手伝いながら、都市農業の担い手のみなさんと交流しました。昼食は、



世界文化遺産のまちを訪れて



ビレッジ・セールスのキャッチ・コピーを考える



横浜の地産地消の朝市で売り子体験

地産地消をコンセプトとする市内の飲食店で小松菜のランチ・コースを食べ、午後は、里地里山保全と体験型環境教育を実施している横浜舞岡公園を訪問し、担い手である NPO 法人やとひと未来の講義を受けた後、園内を見学しました。

5 事後学習

事後学習では、富士河口湖町への政策提案、3つの地域の比較に関するレポートについて、参加学生が報告し、担当教員を交えた討論を行いました。



朝市にて地元の野菜を販売しました。

6 雑感

対照的な3つの地域の持続可能性の相違について、学生たちは体感しながら学べたと思います。

学生の声

『知らないこと』を知る体験



1年 佐藤 舞

私がこのフィールドスタディに参加した理由はテーマである「観光と地域の持続可能性」に興味があったことと、人間環境学部だから出来ることをしてみたいという思いがあったからです。先輩方に囲まれての事前学習は周りの知識の深さなどから、こんな未熟な自分が訪問先で意見を言ったりするのは失礼ではないかと不安を感じましたが「自分にも何かできるはずだ」という思いを胸に知識がないからこそ多くのことを学ぼうという意識で当日を迎えました。

2泊3日+1日で3か所を回るハードスケジュールでしたが、そこで学んだ「自分の未熟さ」と「新しい発見」はフィールドスタディだからこそ知ることが出来たものでした。自分がどれだけ狭い世界で生きてきたのか、自分の知識や認識がどれだけつたないものだったかを思い知り、たった4日間でここまで新しいことを知るという経験も普通に大学生活を過ごしているだけでは経験できないものです。

「自分はまだ何も『知らない!』」ということを知る貴重な4日間を来年度からのゼミでどう生かしていけるかこれからの自分が楽しみです。